

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程（新課程）	言語聴覚士科	夜・通信	10 単位 (1・2 年生分)	10 単位	
医療専門課程（旧課程）	言語聴覚士科	夜・通信	10 単位 (3 年生分)	10 単位	
医療専門課程	臨床工学技士科	夜・通信	10 単位	10 単位	
	救急救命士科	夜・通信	7 単位	7 単位	
	看護学科	夜・通信	10 単位	10 単位	
教育・社会福祉課程	介護総合マネジメント学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
教育・社会福祉課程（新課程）	メディカルスポーツ学科	夜・通信	7 単位 (1 年生分)	7 単位	
教育・社会福祉課程（旧課程）	メディカルスポーツ学科	夜・通信	7 単位 (2 年生分)	7 単位	
（備考）					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyuhoukoukai-im.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-im.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025年6月10日 ～2027年度定時評 議員会終結の時	政策的観点
非常勤	団体職員	2025年6月10日 ～2027年度定時評 議員会終結の時	教育統括的視点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って運営している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。 毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。	
授業計画書の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-im.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階。A、B、C の評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験の受験資格は、科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者に限られる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、客観的な指標を設定するために、授業科目ごとの成績評価を100点満点に換算した上で取得点数の平均を求める仕組みを導入している。 各学生の平均得点と相対順位を把握する成績評価方法は以下の通りである。 ・学科単位を基本として全学生が履修した科目の総得点から平均を求め、「成績一覧表」により学年毎の順位を求める。 ・学生の平均得点と相対順位をもとにした「得点分布表」により、学科学年ごとの成績の分布状況を把握する。 この成績評価方法は半期ごとの集計も可能な方法となっており、「前期」、「後期」、「通年」の成績分布が把握可能な方法である。 成績評価の実施については、これらの成績評価の方法により学科学年ごとに実施しており、客観的な指標の設定については下記 HP にて公開されている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業判定会にて卒業を認定している。 なお、卒業認定に関する規定については、下記 HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html

様式第 2 号の 4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4－①を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html
収支計算書又は損益計算書	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html
財産目録	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html
事業報告書	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html
監事による監査報告（書）	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-im.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	言語聴覚士科	○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	113 単位	87 単位	11 単位	15 単位	0 単位	0 単位
			113 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
120 人		45 人	0 人	5 人	18 人		23 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (86.7%)	2 人 (13.3%)
(主な就職、業界等) 総合病院, 介護福祉施設			
(就職指導内容) 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・言語聴覚士国家資格 受験者数 15 人 合格者数 12 人			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49 人	5 人	10.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的要因、目的意識・学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学技士科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	113 単位	106 単位	0 単位	7 単位	0 単位	0 単位
			113 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		36 人	1 人	6 人	7 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (66.7%)	6 人 (33.3%)
（主な就職、業界等） 総合病院			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・臨床工学技士国家資格 受験者数 18 人 合格者数 12 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50 人	3 人	6.0%
（中途退学の主な理由） 精神的要因、目的意識・学習意欲の低下、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	救急救命士科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	83 単位	58 単位	0 単位	25 単位	0 単位	0 単位
			83 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		75 人	0 人	4 人	7 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。さらに、消防官採用試験の受験希望者に対して、教養試験対策授業も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	35 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 消防職、その他公務員、総合病院、一般企業			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・ 救急救命士国家資格 受験者数 35 人 合格者数 32 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	103 単位	74 単位	6 単位	23 単位	0 単位	0 単位
			103 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		38 人	0 人	8 人	37 人	45 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 総合病院等			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・看護師国家資格 受験者数：22 人 合格者数：17 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	4 人	7.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、病気要因		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	介護総合マネジメント 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	89 単位	59 単位	21 単位	9 単位	0 時間	0 時間
			89 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		18 人	3 人	3 人	16 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 介護福祉施設			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・介護福祉士国家資格 受験者数 6 人 合格者数 6 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	メディカルスポーツ 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	66 単位	28 単位	26 単位	12 単位	0 単位	0 単位
			66 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		16 人	0 人	1 人	7 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業については、健康運動実践指導者のコアカリキュラムを中心に実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。 なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） 目標とする資格取得に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (90.0%)	2 人 (10.0%)
（主な就職、業界等） 一般企業等、地方公務員			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） フィットネスクラブマネジメント検定 受験者数 20 人 合格者数 16 人 健康運動実践指導者認定試験 受験者数 20 人 合格者数 7 人 JATI トレーニング指導者試験 受験者数 20 人 合格者数 5 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	4 人	12.1%
（中途退学の主な理由） 精神的要因、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
言語聴覚士科	150,000 円	1,150,000 円	200,000 円	設備費
臨床工学技士科	150,000 円	1,100,000 円	200,000 円	設備費
救急救命士科	150,000 円	1,100,000 円	200,000 円	設備費
看護学科	150,000 円	1,030,000 円	200,000 円	設備費
介護総合マネジメント学科	150,000 円	780,000 円	200,000 円	設備費
メディカルスポーツ学科	150,000 円	780,000 円	200,000 円	設備費
修学支援（任意記載事項）				
・ FSG 特待生制度：入学手続金から一部免除 ・ FSG 自己推薦特待生制度：入学手続金から一部免除 ・ キャリア支援特待生制度：入学手続金から一部免除 ・ 一人暮らし支援特待生制度：入学手続金から 20 万円又は 10 万円を修業年限分免除 ・ 進級時特待生制度：進級時学費 10 万円を免除				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-im.html		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会（加盟校：26 法人 113 校）により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し自己評価したものを委員として外部から教育・医療・福祉・行政・卒業生から構成された学校関係者評価委員の有識者により学校運営に関する点検・評価に対して意見を伺い学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
日本大学工学部	2026 年 4 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日	教育（工学・医学博士）
東北健康福祉株式会社	2026 年 4 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日	医療・福祉（児童発達支援関係者）
総合南東北病院	2026 年 4 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日	医療（病院関係者）
公益財団法人会田病院	2026 年 4 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日	卒業生（校友会会長）
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-im.html		
(備考)		
第三者評価委員会未実施のため学校関係者評価委員会について記載		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-im.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H107320381177
学校名（〇〇大学 等）	国際医療看護福祉大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		84人（48）人	71人（42）人	84人（49）人
内 訳	第Ⅰ区分	16人	15人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅱ区分	17人	10人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅲ区分	11人	10人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	15人	14人	
	区分外（多子世帯）	25人	22人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				84人（49）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人		
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人		
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人		
計	一人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人		

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。